

令和7年10月14日(火)

太田市議会  
議長 星野 一広 様

公明党代表 前田 純也

## 第87回 全国都市問題会議参加報告書

### 1、期 間

令和7年10月9日(木)～10月10日(金)までの2日間

### 2、会場及びテーマ

会 場 : ライトキューブ宇都宮(宇都宮駅東口交流拠点施設)

テーマ : 成熟社会の都市のかたち  
～コンパクトで持続可能なまちづくり～

### 3、参加者

前田純也、高橋えみ、谷之木勇作

### 4、会議日程

第1日 (10月9日)

#### 開会式

開会挨拶	全国都市問題会議会長	広島県広島市長	松井 一寛
開催市市長挨拶		栃木県宇都宮市長	佐藤 栄一
来賓挨拶		栃木県知事	福田 富市

#### 基調講演

人口減少・成熟社会のデザイン 京都大学名誉教授 広井 良典

#### 主報告

人口減少社会に対応する都市の構造改革  
～100年先も発展できる「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成  
栃木県宇都宮市長 佐藤 栄一

【昼食休憩 80分】

## 一般報告

「縮充」発想による公共施設マネジメント

東洋大学国際 PPP 研究所シニアリサーチパートナー

南 学

【休憩 20 分】

## 一般報告

都市縮小時代の持続可能なまちづくり

～人がつどい 未来に躍動する 世界都市・高松

香川県高松市長 大西 秀人

## 一般報告

次世代交通とコンパクトで持続可能なまちづくり

早稲田大学理工学術員教授 森本 章倫

以上で第 1 日の日程を終了

## 第 2 日(10 月 10 日)

パネルディスカッション

テーマ 成熟社会の都市のかたち ～コンパクトで持続可能なまちづくり～

「コーディネーター」 埼玉大学大学院人文社会科学研究所教授

内田奈芳美

「パネリスト」

(株)みちのり HD 代表取締役 グループ CEO

(兼)関東自動車(株)代表取締役社長 吉田 元

まちなか広場研究所主宰

山下 裕子

北海道室蘭市長

青山 剛

鳥取県米子市長

伊藤 隆司

## 閉会式

次期開催市市長挨拶

山形県山形市長

佐藤 孝弘

閉会挨拶

公益財団法人日本都市センター理事長

香川県高松市長

大西 秀人

以上で全日程を終了 ※終了後、希望者は 6 つのコースに分かれ行政視察

## 5、所感等

第 87 回全国都市問題会議に参加。本会議のテーマは「成熟社会の都市のかたち～コンパクトで持続可能なまちづくり～」であり、人口減少・少子高齢化が進行する中で、これからの都市経営のあり方について考える貴重な機会となった。

<基調講演から得た示唆と太田市の実情>

京都大学名誉教授の広井良典氏による基調講演では、「歩いて暮らせる町」ウォークアブルシティの重要性が示された。車中心から人中心への転換、健康・福祉・環境を統合した都市経営が求められるという指摘は示唆に富むものであった。しかし、面積の多くが市街化調整区域であり、1市3町の合併により複数の中心地が存在する太田市において、コンパクトシティをどう捉え推進すべきか、複雑な思いを抱いた。現在の総合計画が示す市内数カ所の拠点を中心としたまちづくりは、「ネットワーク型コンパクトシティ」として現実的な選択である。

<パネルディスカッションから学んだこと>

2日目のパネルディスカッションでは、室蘭市の事例が特に印象に残った。そこで強調されていたのは、「住民とともに考えるプロセスの重要性」である。また、「市街地ばかりに重きを置くことなく、ハード整備だけでなく地域コミュニティを育てるソフトが重要」という指摘も、私にとって示唆的であった。

米子市の伊木市長からは、「市街化区域にしかコンパクトシティはあたらぬ。その他の地域は見捨てるのか」という市民の切実な声が紹介された。この問いは、まさに太田市も直面している課題そのものである。コンパクトシティという政策を進める際、市街化区域以外の地域に暮らす人々をどう考えるのか。この問いに真摯に向き合わなければ、まちづくりは住民の理解と協力を得ることはできない。地域性を見ながら、それぞれの地域の文化を大切にしながら進めていく難しさを改めて認識した。

埼玉大学大学院人文社会科学教授の内田奈芳美氏による「楽しさは公共性」という言葉は、「この言葉をお土産に持って帰ってほしい」というメッセージとともに、深く心に刻まれた。人口減少という厳しい現実に向き合う中で、ともすれば悲観的になりがちなまちづくりの議論に、「わくわくした気持ち」をもたらしてくれる言葉である。公共交通に乗る楽しさ、町を歩く楽しさ。この視点こそが、人口減少時代のまちづくりを進めるにあたっての大事な鍵となるのではないかと確信した。

<今後の太田市のまちづくりに向けて>

今回の会議を通じて、太田市のまちづくりに対する考えを整理することができた。ネットワーク型コンパクトシティの形成について、後世に残すための礎となるまちづくりという視点で、市民と思いを共有していくプロセスこそが重要である。人・町・地域をどうつないでいくのか。この問いに対して、私たち議会は責任感と決意をもって考え、推進していかなければならない。

その際に、「楽しさは公共性」という理念は極めて重要な鍵となる。義務感や不便の

我慢ではなく、「楽しいから」という積極的な動機によってまちづくりへの参加を促すことができれば、持続可能性は格段に高まると感じる。各拠点の特性を活かした機能配置、拠点間を結ぶ公共交通ネットワークの充実、歩きたくなる魅力的な空間づくり、そして住民参加のプロセスを重視しながら、ネットワーク型コンパクトシティという太田市ならではの「成熟社会の都市のかたち」を追求していく決意を新たにした二日間であった。

## 第87回 全国都市問題会議の写真

